	羅針盤			達成度		改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数值項目	1	2	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 一連の学習活動(課題設定・調査研究・まとめ・発表等)に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。	В	А	A	昨年度と同様に高い水準となった。昨年度と同様、各学科の特色を生かした生徒の主体性を伸ばす指導が実践されていると考えている。	 生後の主体性を伸ばす指導ができていることは評価致します。 昨年底に引き続きコロナ橋で震極寒をを拝見できなかったことは大変残念に思いました。生徒連も行動規制のある中での活動はモチベーションを保っことは困難だったと思います。外部の方がいる中での緊張感を特に1,2年生が経験していないのは残念です。 	今後も時代の変化にも対応しながら、各科の特色を活かした指導を展開していきたい。
		② 本校の教育活動にやりがいを感じている生徒の割合 は、80%以上である。	С	С	С	やりがいを感じている生徒が70%近くはいるものの、なかなか達成する に至らない状況は、昨年度と同様となっている。また、学年間での数値の 差についても気になるところである。	続してくれることを願っています。粘り強く生徒に働きかけていただきたい。①と同様にコロナ禍での影響は大きいと思います。社会一般の影響は計	学校関係者の皆様のご指摘を真摯に受け止め、記載通り生徒に粘り強く傷きかけていきたい。「やりがいを感じる」という定義が、現在努力を続けていることという意味合いで捉えるのか、良い結果が出たものと捉え続いていることという意味合いで捉えるのか。という点や、現在努力を続けていることに対して、自分にとって正しい努力と認識しているかという点について数長と生徒の打が生せているとも、この項目の達成度に関わってくるものと考えられる。来年度に向け、アンケートの質問も含めて考えていきたい。
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。 (R2)	③普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ2級合格者10名、準2級合格者20名以上を目標とする。	С	С	С	各資格試験ともに2級を挑戦する生徒が15名程度であり、漢除の準2級 は20名程度で、英検は30名程度に留まっている。目標数値連載する ためには接触の地やすことと、資格政府を目指す普通料値としての雰囲気 作りが必要であるので、教料担当者だけでなくクラス担任にも受験を促し てもらう。		コロナ禍で分散登校や急な学級閉顧等の家庭学習機会が増えることを想定 して、1人一台端末を有効活用して、生後の学習意欲の向上と各種資格就 験対策を考えていきたい。また、学校では、担任や各種資格の担当教員を 中心に生徒に資格取得の有用性を示して、受験者の人数を増やしていく。
		④生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、 卒業までに3つ以上の資格を取得することを目標とする。	С	В	В	アンケー・調査では、3つ以上資格取得をしている生徒が3年生では8 6. 1%、2年生では66.1%出会ったことから、多くの生徒が遠成で きたと考えられる。しかし、1年生では0%であったため、今後は早期か ら資格取得をさせていきたい。また、2・3年生でも達成できていない生 徒もいるため、達成できるように指導していきたい。	・現在の資格社会をより理解させた上でその取得を目指して飲しい。 ・生物生産料での資格取得についてのアンケート結果が、1年生第1回 1%、第2回の%という数字の原因が何なのか解りませんでした。何か理由のあることと思い評価できませんでした。	次年度も、生物生産料の教育活動の一環として、資格取得を位置づけて実施していきたい。また、1年生の資格取得率が低いのは、アンケート実施後に検定の否が発表されることと関係している。実際、1年生は3つの検定などが全員受験させていることから、実際は、今回の数字よりも高い数字となると考えられる。これらも踏まえ、今後もより資格取得に意識して指導していきたい。
		⑤環境工学科では、1年生は年度内に資格を2つ以上取得する。2年生は年度内に資格を2つ以上取得し、学年で測量士 補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ50%とする。3年生は測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を 保有している者の割合を50%以上とする。	С	С	С	2年生の2級上水施工管理技術検定の取得率は80%であり、測量上補国家試験の取得率は12%である。3年生の級上水施工管理技術検定の取得率は75%であるが、測量土補の取得率は80%である。3年生の側量土補国家試験の受験に際して、2年次では交験接替処置が行われ多数が受験せず、3年次では支端接触を重なり、受験体制がつくれなかった。来年度の測量土補国家試験は5月に行われるため満を持して臨みたい。	・現在の資格社会をより理解させた上でその取得を目指して欲しい。 ・環境工学科の資格は就職に直結することも多いので合格率は大きな目標 だと思います。教育支援アプリケーションの活用が定着されたと評価抜します。清極的な生徒の対応は個人的には対面での指導が必要だと思いますが、コロナ収束後の有効活用が課題だと思います。	資格取得の柱に位置づけている「測量士・同士補国家試験」と「2級士木施工管理技術検定」については、合格率の増加を目標としたい。そのためには対面での補管体制は必須であると考えられるが、教育支援アプリケーションの活用も通じ、生徒自らが学べる体制もつくりたい。そして、取得した資格や専門の授業を適じ、測量設計業及び土本建設業への進路を選択する生徒が増えるように学科全体で取り組みたい。
		⑥福祉科では、介護福祉士国家試験の合格率90%以上を 目標とする。	С	С	С	クラッシーによる毎日課題を配信や放課後補習等を行うことで、継続的に国家試験対策を行うことができた。多くの生徒の機能試験の結果が昨年の合格点を上回ることができた。まだ数の機能に届かない生徒がいるので、個別指導等を継続的に実施していきたい。	- 現在の資格社会をより理解させた上でその取得を目指して飲しい。 - 福祉科では、毎年介護福祉土国家近験で優秀な成果を出していると思います。福祉最後として思うことは介護職法の問題になっています。以前は同居家族でお年寄りと生活する事があたり前でしたが核家族が進みられ合う場が減っています。多くのふれ合いの場は大切だと思っています。	端末を使用した国家試験対策を充実させ、生徒が自ら勉強する環境を整え ていきたい。また、複試の結果が合格圏内に届いていない生徒に対して は、早い段階から個々に応じた国家試験対策を行えるようにしていきた い。
	3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑦ 学科の特長を活かした体験実習、地域等との連携・交流活動について、感染症対策に留意して実施する。	С	В	С	今年度も分散を投資の障害はおったが、外部講師による授業や交流活動、一部で インターンシップ化とを実験することができた。生後も日頃の学習を深化させる機 会を得て、生き生まと取り細と客が見受けられた。 一方、生物生活料のインターンシップについては、受入をとの調整がつかずやむ なく中止となった。また、福祉柱の現場研修(実習)参の含入れにおいても、相手 先との調整がつかずほとんどが中止となってしまったのは残念であった。相手のあ ることなので、新型コロナウィルス感染能に必若された1年であった。	を得ない。 ・コロナ対策は社会的問題なので、なかなか難しい項目だと思い今回も評 ほできませんでした。	主接の連修実現やスキルアップのためにも実施したいところであるが、感 製症第6波、7波の到来、ある程度の終息等、状況が見適せない現状では決 性度の実施もなかなか厳しい状況だと言えそうである。 部活やその他を考慮し、例年夏季休業別期の実施としているが、6~7月 の感染状況で可否を判断しなければならないことや、依頼先によっては中 学生、他校生、専門学校生との重複もあるので、時期をずらすなど臨機応要 大対比で進められる範囲で実施していきたいと考える。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動 について適切な指導をしてい ますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑧ 各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。	В	С	С	学年・学科により、学習に対する達成感・満足感に個人差があった。特に 新型コロナウィルス感染症による分散登校後に、下降傾向にあるようであ る。引き載き、各科・各教科での校業を上来し、IITを活用しながら、それ ぞれの生徒が学習に対する達成感・満足感を捧てるよう指導していきた い。	************************************	新型コロナウィルス感染症による分散整枚後に、遠底感・満足感が下降額 向であったので、これまで以上にICTを活用することで側に応じた指導を工 夫できるよう結り強く指導を離続していきたい。次年度も各科・各教科で の校業を工夫し、それぞれの生徒が学習に対する違成感・満足感を持てる よう指導していきたい。
	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨ 単位未習得者の割合は、全体の3%以下である。	В	В	В	学期ごとに、単位未習得者の割合が減少しつつある。また長期休業の道 試・補習を通して、単位未習得者の割合がさらに減少した。引き続き側に 応じた指導も取り入れながら、単位未習得者の割合を減らしていきたい。	 取り組みを評価します。 ・先生方のご指導、ご尽力は大変なことだと思います。少しでも成果がだせるようによろしくお願いいたします。 ・引き続きのご尽力をお願いしたい。 	学期でとに、長期休業中の追訴・指習を通して、単位未習得者の割合を減 ゆさせることができた。引き続き個に応じた指導を取り入れながら、さら に単位未習得者の割合が減るよう指導を継続していきたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活 について適切な指導をしてい ますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩生徒観察を常に行い、定期的に注意喚起を行う。また、 講習会等を行い先生方の意識の向上を高める。発生後も生 徒・保護者のケアに努める。	В	В	В	た集会の中で学年主任の先生方を中心に注意験起を行ってくれたり、長期休楽 前には警察の方講話をしたりと対応もできた。多くのアンケートでSNSの書き込 み等に関して注意を行っていると回答も見られた。今後もさらに注意喚起や相 談の対応の仕方を考えていきたい。	- この項目については、非常に難しい問題と理解しています。特に「こころの間」に関わる問題があると思います。楽しい学生生活が送れるようご 指導さお願い表します。 - コミュニケーション不足による不安等が増えないよう、引き続きの取り 組みをお願いしたい。	日々進化していく SNSの変化に対応しながら注意をしながら指導を継続 したい。また、生徒が抱えている心の問題等にさらに注意を図り、コミュ ニケーションをとりながら指導を行いたい。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に 行っていますか。	⑪マナーアップや校門指導時に生徒会を中心に活動を行う。アンケートを定期的に行う。また、二者面談や三者面談を積極的に行う。	С	В	В	分散整枝もあり、生徒がSNS関係に触れる時間が多くあったが、大きた問題も無く生徒が適ごすことができていた。アンケートでも多くの生態が書き込みを行ったしたといると回答してくれた。しかしその中でもいこめが発生してします場面も見られるので対応を考えていけないと感じているの、大生方が面談やアンケートの結果を参考に対応等も行ってくれているので参前に助止ができていると感じる。	・取り組みを評価します。 ・様々な取組みや連携等ご尽力されている様子を評価致します。	SNSの利用時間が増えている中で、利用マナーの更なる向上を目指すと 共にSNSを利用した注意の呼びかけ等も積極的に行い、生徒が中心と なってSNSを利用し注意等を行う活動も行いながら指導を継続していき たい。
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	②新型コロナウィルスの影響下で、スマホやPCの適切な活用方法を意識している生徒が80%以上である。定期健診の再受診の未受診率を30%未満にする。	В	С	С	スマホやパソコン、タブレット等の利用時間が3時間未満の生徒が12年 6%、29年13%、39年5%と前回の調査とりそれぞれ増加とかり、全体では66%となった。よって、長時間使用する生徒は1回目の選差から22%減少したことになる、引き続き使用時間を中心とした活用を促していきたい。また、未受診率については22等期終了時に約30%となった。生徒や保護者の協力のおかけだと考える。登校前に朝食を残ることを感染予防のための手洗いの習慣については、大変高い連成率だった。今後も生徒保健委員会が中心となって継続的に健康面などの情報を発信していきたい。	・スマホやPCの適切な使用方法の指揮は是非進めて欲しい。 ・コロ・構での基本的な生活習慣や機能を管理について造成できているとの ことを評価いたします。まだまだ長期戦との報道もありますので引続き対 策をお願い致します。 ・①一②で増加したが、ある程度しかたがないと思う。配布PCの活用が より有効となるようお願いしたい。	スマホやパソコン、タブレット等の利用環境が、生徒の健全な生活にどの ような影響を及ぼしているのか、多角的、長期的た面がら必要と思わる情報を多く発信していきたい、その際、久里派逐報センターのIAI : Internet Addiction Test (インターネット依存度テスト)の活用なども取り入れてみたい。また、定期的に行われている健康診断の結果を生徒が適切に受け止め、早期に対処できる姿勢を促し、高校卒業以降も健康な生活を述れるための教育的な助言を行いたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択 について適切な指導をしてい ますか。	9 計画的な進路指導を行っていますか。	③学校での進路学習に対する高い満足度を持つ生徒の割合が80%以上である。	В	В	В	高学年になるほど満足度は高い傾向にある。それだけ連路学習に対する意識が 高まっているからだろう。低学年生後でもオープンキャンパス等に参加する生 後もおり、学校のガイダンス等を通して適路意識が高まっていると思えれる。 保護者についても高学年の保護者に連路により高い関心を持っているようだ。 通路に関しては生後、保護者、学校が連携していく必要があり、連路行事や3 者面談等を通してよりよい連路選択ができるようにしていきたい。	・先生方の親身な指導を評価数します。 ・連絡指導については第1回、第2回ともにB評価となっているので、ほぼ連依できいると評価数します。 ・コロナの影響で生の体験がいかに有効であるかを実感している今、タイミングや内容を工夫して1つでも多く実行してほしい。	スタティサブリ等によるオンラインでの連路学習の充実を図り、コロナド 対面式の連路行事等が十分に行えない際に保管できるようにしたい。 今年度の経験を生かして、1 CT活用による作業の効率化を図るとともに ペーパーレス化による省資源を進める。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	④ポートフォリオの作成やフォーサイト手帳を活用している生徒が80%以上である。	С	С	С	よく活用していると回答した生徒は3割程度であった。高学年生徒のほう が活用が積極的なようだ。連路学習についてはいつまでに何をするといっ た先を見過ず力が必要で、クロームブックやスマートフォン等でもみて ジュール管理はできるかもしれないが、手帳を使うメリットもあるだろ う。ボートフォリオは連路に活用できることを意識してもらえるような活 用機会が十分ではなかった。	 目標連成の為には、紙に書いて確認することも必要であると思われる。 一挙に大きな目標は難しいと思われるので、少しずつ着実に考えるのがよくはないか。 ・引続き、本人の適性にあった指導をお願い致します。 	手帳はクラスの実情等を考慮しつつ活用し生徒の自己管理能力や計画性の 向上を図りたい。 ポートフォリオに関しては活用がクラスによって異なる現状を踏まえ、生 徒個人が自分自身に対する理解を深め成長するための道具となれるよう、 より効果的な活用について学年やクラスと連携していく。
V 開かれた学校づくりに努 めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑤ 「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。	С	С	С	学校の様子がよくわかると答えた保護者は50%にとどまった。即の更新は 定期的に行っているが、大半の保護者・生徒は定期的に即を見る習慣がな いことが考えられるため、今後は保護者が定期的に即を確認するような仕 組み (メールマガジンやSMS、Youtubeなど) や情報の発信を工夫していき たい。	り、よく写真を撮るのを見かけます。	旧の更新頻度を増やすと共に保護者が定期的に旧を確認するような仕組み (メールマガジンやSNS、Youtubeなど)や情報の発信を工夫していきた い。
VI 教育のデジタル化に努め ていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑩LMS(スタディサブリやClassroom)を利用した授業や課題の発出を行っている教諭が60%以上である。LMSを利用した教諭の50%以上が評価に結びつけている。	С	С	С	新型コロナにおける分散投稿によって学校全体でLMCを利用するようになった結果、課題の発出について、基本的には全職員が行えるようになった。 今後は課題を評価につなげるための譲習やサポートを充実させる必要がある。 ICTの活用が負担とならないため、業務改善と並行して進める必要もある。	部分で弊害を受ける生徒もいると思います。そういう生徒のフォローもお 願いします。	職員に対しては課題を評価につなげるための講習やサポートを充実させる 必要がある。ICTの活用が負担とならないため、業務改善と並行して進める 必要もある。 生徒対しては、家庭の通信環境に違いがあるため、配慮しながら活用を進 める。
	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①校務にICTを活用し、業務が改善したと実感する職員が8 0%以上である。	С	С	С	学習用端末や職員ポータルサイトの本格的な導入は今年度 が初めてであるためか、目標を達成することが難しかった が、一昨年の状況と比較すると大きく業務改善できている と考えている。	 ICT社会に対応する先生方のご苦労には敬意を表します。 ICT化は必須項目になっていますが、家庭内での活用には温度差があると思います。根気よくご指導頂けるようお願い致します。 	教員より詳細な意見を聞き取りながら、働き方改革の一環 として前向きに進めていきたい。